

# 地学協働

03

2022年12月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

## 1 北海道地学協働活動推進会議について

北海道地学協働活動推進会議は、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地学協働活動」の充実を図るための方策について検討し、地方創生の推進を図ることを目的として、令和3年度から道教委が設置する会議です。

メンバーは、各教育局から推薦された行政関係者や学校関係者、経済・企業関係者、地域振興・地方創生に関わる方など各分野で活躍されている14名の構成員に加え、北海道地学協働アドバイザー4名で構成しています。

年間3回の会議では、事務局から道教委における地学協働の取組状況について報告するとともに、「地学協働の普及・啓発の方策について」をテーマとして設定し、本広報誌や「北海道地学協働アワード」等、地学協働の普及・啓発に関する事業について活発な協議をいただいています。



【第2回会議の様子】

|    | 分野              | 管内    | 所属                       | 職名     | 氏名    |
|----|-----------------|-------|--------------------------|--------|-------|
| 1  | 教育委員会職員（学校教育部局） | 十勝    | 帯広市教育委員会                 | 係長     | 清水 純二 |
| 2  | 教育委員会職員（社会教育部局） | 渡島    | 八雲町教育委員会                 | 主事     | 川口 絢未 |
| 3  | 行政職員（保健福祉部局）    | 檜山    | 奥尻町役場                    | 社会福祉士  | 羽立 友里 |
| 4  | 行政職員（地域振興担当部局）  | 胆振    | 登別市役所                    | 主任     | 服部 将大 |
| 5  | 教職員             | 上川    | 富良野市立樹海学校                | 教諭     | 松川 理恵 |
| 6  | 学校運営協議会委員       | 日高    | 振内小学校学校運営協議会             | 委員     | 奥村 俊也 |
| 7  | PTA関係者          | 宗谷    | 中頓別町立中頓別小学校PTA           | 会長     | 澤里 尚広 |
| 8  | 社会教育関係者         | オホーツク | 公益財団法人オホーツク生活文化振興財団      | 指導係長   | 高田 直紀 |
| 9  | 経済団体関係者         | 釧路    | 一般社団法人釧路青年会議所            | 理事長    | 島本 勇平 |
| 10 | 企業関係者           | 後志    | 民宿きのえ荘                   | 女将     | 池本 美紀 |
| 11 | まちづくり団体関係者      | 根室    | なかしべつ町民活動ネットワーク          | 代表     | 本間 玲子 |
| 12 | 地域おこし協力隊        | 空知    | Ka2 Design（元赤平市地域おこし協力隊） | アドバイザー | 大倉 加奈 |
| 13 | 学識経験者           | 石狩    | 北海道アダプティブスポーツ            | 代表     | 齊藤 雄大 |
| 14 | その他 地学協働に関わる者   | 留萌    | NPO法人留萌観光協会              | 理事     | 谷 龍嗣  |

## 2 放課後活動推進協議会（第1回）の報告

道教委では、放課後子供教室や放課後児童クラブといった「新・放課後子ども総合プラン」等の事業を推進する方々を対象に、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的として、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な講義や演習等を行う「放課後活動推進協議会」を全道4つの会場で実施しています。

### 1 道央会場【6月28日実施】

- 講義：「みんなが安心して過ごせる環境づくり」
- 講師：北海道立特別支援教育センター研究員 大西 修 氏  
子どもたちへの支援の方法についての説明や、学校等におけるユニバーサルデザインの事例についての紹介がありました。また、一人ひとりに応じた支援として、子どもが安心できる言葉かけの方法や肯定的な表現で具体的に伝える方法についての説明がありました。



【オンライン受講の様子】

### 2 道東会場【6月21日実施】

- 講義：「新型コロナがもたらす子どものストレスと対処方法」
- 講師：北海道教育大学教職大学院教授 安川 禎亮 氏  
新型コロナウイルスのまん延により、子どもたちにもたらすストレスが、心身に影響を及ぼしていることについて理解を深めました。  
また、生活リズムや人間関係の変化、感染の恐怖から子どもたちの心をケアする実践的な方法などを学びました。



【講師による説明の様子】

### 3 道南会場【7月29日実施】

- 演習：「身近なもので防災に役立つ道具を作ろう」
- 講師：北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森  
主査 本田 憲司  
児童が気軽に楽しむことができ、防災に関心が高まるよう、新聞紙を材料に、避難所で手軽に用意できるスリッパやゴミ箱の作り方について紹介がありました。



【参加者による制作体験の様子】

### 4 道北会場【7月12日実施】

- 演習：「創作活動プログラム～海藻押し葉クラフト体験」
- 講師：地域おこし協力隊利尻海藻押し葉担当 安田 志穂 氏  
子どもたちの成長発達を促す創作活動の指導方法等について、海藻押し葉クラフトセットを用いて説明がありました。



【講師による実演の様子】

上記の講義・演習に加え、参加者の情報交流の時間も設けられました。

また、全会場において、参加者アンケートでは、「オンライン実施のため、全道各会場の講義にも気軽に参加できた。」「情報交流では、活動支援に関する悩みについて、各施設の皆さんからたくさんのヒントをもらえた。」といった声などが寄せられました。

### 3 地域と学校の連携推進協議会（道南）の報告

道教委は、子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール(CS)」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって「地域学校協働活動」を充実させる方法等について理解を深めることを目的に、地域と学校の連携推進協議会を全道4つのブロックで実施しました。

今回は、令和4年9月30日に道南ブロックで実施した内容を紹介します。

#### ■ 実践発表



【舩田コーディネーター】

「学校運営協議会と地域学校協働本部の両方を整備している小中学校の取組」について  
厚真町教育委員会ふるさと教育推進コーディネーター 舩田 仲 永 氏

学校の応援団として地域住民が学校運営協議会に参画し、地域の人材や資源を学校の学びに積極的に活用することで、地域住民の参画意識と子どもの学びが高まった事例や地域学校協働本部（あつまるネット）のコーディネート機能を活かし義務教育9年間を通した「ふるさと教育」の推進により、ふるさと厚真の未来を語れる子を育成する具体的な取組について発表していただきました。



【久住コーディネーター】

「教育委員会職員としてのCSコーディネーターの取組」について

日高町教育委員会指導主事／CSコーディネーター 久住 勉 氏

地域住民にコミュニティ・スクールを理解してもらうために発行したCS通信「つなぐ」の紹介や地域を訪問してコミュニティ・スクールの仕組みについて説明するなどの啓発活動を通じて、地域住民の学校に対する理解が深まり、地域人材による学校や子どもたちへのサポートにつながった事例について発表していただきました。



【安達教頭】

「高等学校でのCS」について

北海道追分高等学校教頭 安 達 妙 己 氏

安平町による北海道追分高等学校への積極的な支援を始め、学校運営協議会委員に町教委職員や地元企業関係者など地域に密着した人材を委嘱する委員選定の工夫、学校運営協議会の各分会（カリキュラム分会・コミュニティ分会・キャリア教育分会）における学校行事や教育課程の見直しに関わる検討など、道立高等学校の学校運営協議会の実践について発表していただきました。

#### ■ 協議・交流



学校運営協議会・学校関係者のグループでは、「学校と地域の現状」「目指す姿（目指したい姿）」「学校運営協議会の効果」について協議を行いました。コーディネーターのグループでは「情報収集」「つながりづくり」「マネジメント」「発信」について協議を行いました。

協議・交流をとおして、今後の取組に必要となる具体的なポイントやアイデアを参加者同士で共有していただきました。

# ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課地学協働推進係では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。今号は、本年度から実施の「学校図書館担当職員講習」の中で、児玉優子講師（札幌市立栄町中学校・栄南中学校学校司書）から紹介のあった学校図書館の環境整備に関する好事例を紹介します。

## 読みたい本・情報にグッと近づく方法いろいろ

### ① 読書意欲が高まる展示

学校図書館では、児童生徒に読んでほしい・知ってほしい事柄について、タイミングを逃さず展示を行うことが効果的です。図書や新聞、リーフレットなど、学校図書館の様々な資料を活用し、情報提供を行います。展示は、1冊からでも構いません。

写真は全て札幌市立栄町中学校



キャリア学習との連携  
「お仕事小説」



### ② 更新型・参加型掲示

学校図書館の掲示は、鮮度管理が重要です。常時掲示しておくものだけでなく、情報発信の場として、頻繁に更新したり、児童生徒が活動に参加できる掲示を行ったりすることで、学校図書館の資料に誘う工夫ができます。

### ③ 新聞の活用

新聞は、地域や社会のあらゆる分野の情報が網羅された信頼性が高いメディアです。児童生徒は、複数紙を読み比べることで、一つの情報に対し多くの捉え方があることを知ることができます。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益財団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>